



道新青葉中央販売所だより

発行元：(株)道新販売センター 青葉中央販売所

〒004-0021 厚別区青葉町6丁目1-33 ☎0120-881-365 FAX891-3486

営業時間 平日：9時～20時 日祭日：9時～12時

2019/ 9/5

木曜日

厚別アラ歩き

#24 小野幌⑩

この連載で小野幌地区を紹介するに当たり、現在の厚別東、厚別北という町名の一帯が元は小野幌と呼ばれたことを最初にお伝えしました(2018年8月号、連載#11)。

小野幌はアイヌ語の「ポン(小さい)ヌポロベツ(野の中の川)」に由来するとみられます。前に載せた古地図を見ると、このあたりには別の地名も書かれています。「越中山」「阿波開墾」です(図1)。明治時代に入植した人びとの出身地が付けられたものです。厚別東、厚別北地区を訪ねると、富山県から来た方のご子孫が今も多くいらっしゃいます。

図2は明治20年代、富山から小野幌に入った樋口家の元住宅で、1897(明治30)年に建てられたものです。富山県に特有の「ワクノウチ」という骨組みを用いたこの住宅は現在、北海道開拓の村で保存されています。図3はその富山県の砺波地方に典型的な農村景観「散居村」を写した空中写真です(2009年、国土地理院サイトから)。「カイニョ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた農家住宅が点在しています。

図4は1966(昭和41)年の小野幌一帯を写した空中写真です(同上)。図3の砺波の農村と比べてみて、どうでしょうか。かつての小野幌にも散居村的な風景が広がっていたように私には想えます。

ところで、「越中山」という地名は、昭和戦後期の地形図からは消えます。もはやこの名前は世の中に存在していないと私は思っていたのですが、先日、「越中山」が健在であることを知りました。図5です。1988(昭和63)年、小野幌神社の境内に立てられた「小野幌開基百年之碑」の裏側に、「越中山町内会」と刻まれています(矢印の先)。この町内会は今も続いているそうです。

(地域史研究者 杉浦正人)

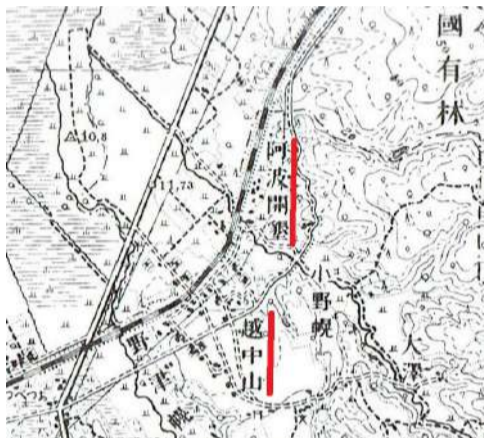


図1：大正5年地形図 小野幌一帯



(左) 図3：空中写真(富山県砺波市、2009年)

(右) 図4：空中写真(小野幌一帯、1966年)



図2：旧樋口家農家住宅(北海道開拓の村)



図5：小野幌開基百年之碑 裏面

道新 青葉中央販売所は献血活動を応援しています

命を救うボランティア献血バスへ行こう!



★みなさまの血液は、誰かのいのちに繋がります★

毎月、ご近所に献血バスがやってきます

受付時間	献血会場
9:30～ 11:00	札幌東税務署 9月12日(木) 厚別東4条4丁目8-8
14:00～ 17:00	JCHO札幌北辰病院 9月17日(火) 厚別中央2条6丁目2-1

～A型・O型・AB型の不足に非常に困っています～

～新さっぽろ献血ルームのご案内～

◇厚別中央2-5 Duo(デュオ) 地下1階
◇受付時間 ①10:00～13:00 ②14:00～18:00



★休憩スペースにはクッキーなどお菓子をご用意しております。また、キッズスペースも充実! 存心して献血いただけます。

※①北海道赤十字センターHPより転載 ※②献血バスの進行予定は変更になる場合がございます。直近の予定は北海道赤十字センターHPにてご確認ください。
<https://www.bs.jrc.or.jp/hkd/hokkaido/>

いざという時のために、普段からの「備え」「心得」が大切です。

9月1日は「防災の日」です。



◇災害が発生するとライフラインがストップしたり、帰宅困難者との連絡が取れなくなったり、避難所での生活が続いたり、様々な困難に会うことが考えられます。

普段からの「備え」や「心得」を考えてみましょう。

～避難の心得～

- 避難場所は、最寄りの小中学校が基本です。他にも神社やお寺、地区会館などが地域の避難場所になっています。日ごろから確認しておきましょう。
- 避難勧告や避難指示があった場合は、速やかに避難しましょう。
- となり近所の人たちに声を掛け合って、集団で避難しましょう。
- 自動車を使わず徒歩で避難しましょう。
- 避難する前にガスの元栓を開め、電気のブレーカーを切っておきましょう。

災害時の連絡先

◇厚別区役所 895-2400

火事・救急・救助は119番

停電・故障の時

◇北海道電力(株) 221-3161

ガス漏れの時

◇北海道ガス(株) 233-5533

水道の夜間・休日の緊急連絡先

◇水道局電話受付センター 211-7770